

第3次広島県食育推進計画の 策定にあたって



「食」は生命の源であり、私たちが心身ともに健康に生活していくうえで欠かすことのできないものです。

同時に「食」は、家族の結びつきや人とのつながりを深めるとともに、食に関わる人々や自然の恩恵への感謝の念や理解を深めることにもつながる大切なものです。

本県では、平成20（2008）年3月に広島県食育推進計画を、平成25年（2013）年3月に広島県食育推進計画（第2次）を策定し、県民、市町、関係機関・団体及び事業者等の皆様と連携し、食育の周知及び実践を推進してきたところです。

この間、県内全市町で食育推進計画が策定されるなど、県民の身近な地域で食育を推進できる体制は整ってきましたが、第2次計画の重点目標であった、食塩の摂取量を減らす、野菜の摂取量を増やすなどの生活習慣病を予防・改善する食生活の実践は十分進んだとは言えない状況です。さらに、朝食や夕食を家族と一緒に食べる「共食」の機会が家庭状況の多様化などにより減少しています。また、20～30歳代の若い世代で朝食を食べない人の割合が依然として多い状況です。一方、高齢者の低栄養の予防、生活が困難な状況にある子供への支援、食品ロス削減などに向けた食育の取組も求められています。

こうしたことを踏まえ、本計画では、すべての県民の皆様が食に関する知識や判断力に基づく適切な食生活の実践により、いつまでも健やかな生活を送れることを目指して、「1日の食塩摂取量の減少」、「1日の野菜摂取量の増加」及び「毎日朝食を食べる県民の割合の増加」の3項目を重点目標とし、健康寿命の延伸につながり、世代や生活状況そして環境へも配慮した県民一人ひとりの食育の実践支援に取り組むこととしております。

県としては、これらの取組を県民、市町、様々な関係機関・団体及び事業者等の皆様と連携して推進し、全県的な取組として展開してまいりたいと考えておりますので、皆様には一層の御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、本計画の策定にあたり、熱心に御議論いただいた「広島県食育推進会議」の委員をはじめ、貴重な御意見、御提言を賜りました関係者、県民の皆様には深く感謝申し上げます。

平成30（2018）年3月

広島県知事 湯 崎 英 彦

